

令和5年度 自己点検評価報告書

令和6年3月31日
学校法人仁多学園 島根リハビリテーション学院

1. 学院の教育目標等

【基本理念】
教育基本法 の精神及び学校教育法第124条の趣旨に則り、国際的視野に立った豊かな教養と高い倫理観を備え、かつ、科学的探究心に富む人材の養成と理学療法及び作業療法の向上を目的として教育及び研究を行うとともに、その成果をもって地域社会の発展に寄与し、人類の福祉に貢献することを基本理念とする。

【教育目標】
生命の尊厳を柱として広い教養と高い倫理観を身に付け、科学的な探究心を養い、時代の要請に応じうる理学療法士、作業療法士を養成することを目指している。

【設立の理念】
奥出雲の玉鋼は、「たたら」製鉄法により、燃えさかる炎の中で叩きあげられ磨きぬかれた、強靱な心と卓越した技の結晶である。
この豊かな潤いのある自然の中で培われ育まれた技のように、優れた医学的知識と医療技術を身につけて、障害の改善と自立を目指す人々を、力強く支え共に生きる、優しい心を持った医療人が、ここ島根リハビリテーション学院から巣立つことを期待する。

2. 本年度重点目標

↓適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1

重点目標	自己評価	達成計画	達成状況（特記事項）	更新担当
1. 教育の質の更なる向上を図る				
1) 両学科における資格取得率100%の達成	1)	e-learningで使用する映像教材の質の向上	全分野の映像教材を整備できた。しかし、内容と運用方法に課題が残る。	教務
2) 教員の質の向上	2)	学位取得の推進 PT：博士課程進学1名、OT：修士課程受験3名	PT教員：博士課程進学1名 OT教員：修士課程進学1名	
3) カリキュラムの魅力化	3)-1	治療学系科目への実務家教員導入の検討	PT学科では、治療学系科目（整形外科系治療学・内科系治療学・神経内科系治療学・地域理学療法学）へ実務家教員の導入が計画通り実施できた。 OT学科では、治療学Ⅰ（身体）、Ⅱ（精神）、Ⅲ（発達）へ実務家教員の導入を実施した。	
	3)-2	6年度開設科目の準備	下記の新規科目が設置された新カリキュラムを県へ申請し認可された。また、下記の科目の準備を行った。 両学科新規科目：キャリアマネジメント論Ⅱ PT学科新規科目：スポーツメンタルトレーニング、スポーツトレーナー演習、スポーツ理学療法演習、内科系治療学Ⅱ、地域理学療法演習、地域理学療法実習 OT学科新規科目：メンタルサポート&ソーシャルネットワーク、コミュニティデザイン	
	3)-3	育成人材像の再検討（※社会的ニーズの把握を目的とした調査）	育成人材像の再検討を目的に、PT・OTの臨床家を対象とした社会的ニーズの把握調査を実施した。調査結果は、教育課程編成委員会にて公表し、育成人材像を検討した。	
	3)-4	DX人材の養成のための教育体制の調査	社会的なDX化の流れ、教育におけるDX化の方向性を調査し、R6年度からDX化に対応した新規科目を設置できた。	
4) 臨床実習教育の質の向上	4)	CCS研修会を通じた臨床実習指導者の養成と就職先や臨床実習施設の確保	CCS研修会の開催および臨床実習指導者の養成は計画通り実施し、臨床実習指導者の養成、新規臨床実習施設の確保に寄与できた。しかし、新規臨床実習施設の確保は不十分であり、CCS研修会等の開催を継続していく必要がある。	

<p>2. 学生支援の充実を図る</p> <p>1) 休退学率の低減</p>		<p>1) 学生間の縦と横の関係を構築するための年間を通じた学内イベントの立案と実施</p>	<p>本学院は、学生の休退学率3%以下を基本方針としている。年間を通じた交流イベントの企画実施により学年や学科を超えた交流が促進された。</p>	<p>橋村</p>
<p>3. 社会・地域貢献の充実</p> <p>1) 奥出雲地域包括ケアシステム構築への寄与</p>		<p>1) 教員と学生サークルによる介護予防活動の継続</p>	<p>教員と両学科の学生サークルによる介護予防活動は、計画通り達成できた。加えて、理学療法学科では、新たな新規活動(栄養指導・Kidsスクール)を立案し実施できた。</p>	<p>教務</p>
<p>4. 学生募集を強化し、両学科の定員を充足する</p>		<p>1) 県西部・隠岐エリアでのセミナーの開催などによる募集活動強化</p> <p>2) 作業療法士について興味・関心を喚起させるツールの作成 ※DM、資料請求者、進路相談会等で送付・使用する資料等の作成</p> <p>3) 進路相談会への参画数増 ※広報費予算の弾力的・機動的執行による進路相談会への積極参加</p>	<p>隠岐郡海士町でのセミナー開催、県西部エリアでの高校出前授業を行った。</p> <p>作業療法士の職域の広さを他職種と比べたものを制作</p> <p>資料請求者や進路相談会の参加者への資料として提供</p> <p>前年度と比較して進路相談会の参画回数、接触者数を増加した。</p> <p>R6年度学生募集は理学療法学科 29名、作業療法学科 13名が入学。</p> <p>作業療法学科はR4年度に続き定員を充足することができなかった。</p>	<p>松本</p>

3. 評価項目の達成及び取組状況

↓ 適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1

区分	評価項目	自己評価	現状と課題	今後の改善方策	令和5年度の特記事項	更新担当
1. 教育理念・目標	① 学校の理念・目的・育成人材像は定められているか（専門分野の特性が明確になっているか）	4	「基本理念」、「教育目標」、「設立の理念」を定めるとともに、専門分野の特性を明確にした育成人材像を定めている。	社会的ニーズの変化に対応するため、様々なメディアを通して医療・保健・福祉の情報を収集することで、理念、目的、育成人材像を継続的に検討し、教育に反映して行く。		教務
	② 学校における職業教育の特色は何か	4	「地域社会に貢献をする力」、「人とのコミュニケーション能力と協調性」、「自然環境や地域文化の豊かさに育まれた人間性と倫理観」を備えたセラピストの育成。	時代と社会の変化に即応した学校運営やカリキュラムの構築。 行政や関係業界と連携した幅広い課題解決型授業（アクティブラーニング）の展開。		教務
	③ 社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	4	「日本の未来でリハビリを学ぶ」をコンセプトに、高齢化率40%超の立地自治体をフィールドとして、「地域との交流を図り、コミュニケーション能力の向上と、人との協調を大切にすること」に取り組んでいる。	チーム医療演習等の授業科目、サークル活動等の課外活動を通じた地域との交流の促進。		教務
	④ 学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生・保護者等に周知されているか	3	将来構想とともに学院案内・学生便覧、学院ホームページ、広報紙（島リハ便り）等に明記し、学生・保護者・関係業界等に周知している。	引き続き、周知に努める。		松本
	⑤ 各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	4	各学科の教育目標、育成人材像は、近隣関連業界から委員として参加して頂いている教育課程編成委員会の意見を参考にし、教務会議にて検討後、スタッフ会議（全体会議）で決定している。	引き続き、施設・病院のみならず、異なった分野から教育課程編成委員として加わって頂き、幅広い地域情報を聴取し、地域に特化したカリキュラムの充実を図って行く。		教務
2. 学校運営	① 目的等に沿った運営方針が策定されているか	4	理事会・評議員会で審議・決定された運営方針・事業計画に基づき、学院運営会議や各委員会等において具体的な施策を検討・実施するとともに、その成果を理事会・評議員会で報告している。	学院運営会議を中心に、中長期的な視点で学院運営の改善を図るとともに、外部識者で構成する学校関係者評価委員会等の審議・評価を受ける体制を維持していく。		落部
	② 運営方針に沿った事業計画が策定されているか	4	毎年度の予算と事業計画等については、学院運営会議やスタッフ会議等を経た後、理事会・評議員会での審議を経て策定している。	将来的課題に対処するため、運営方針の継続的な検証と見直しを行っていく。		落部
	③ 運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	4	寄附行為、学則、処務規程、役職規則、各委員会規則等において明確化しており、有効に機能している。	体制整備、ガバナンスの構築について、継続的な検証と見直しを行っていく。		落部
	④ 人事、給与に関する規程等は整備されているか	4	就業規則、給与規程等を整備している。	法令改正等に適宜対応していく。		落部
	⑤ 教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	4	各種委員会規程や処務規程、経理規程等に基づき、意思決定を行っている。	継続的な検証と見直しを行っていく。		落部
	⑥ 業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	4	教職員等が行う研究等の倫理的妥当性を担保するため、倫理審査委員会規則を整備・運用している。	継続的な検証と見直しを行っていく。		落部
	⑦ 教育活動等に関する情報公開が適切になされているか	4	各種情報については、学院案内、ホームページ、SNSで公開・発信している。	最新の教育情報を積極的に公開していく。	・保護者、病院・施設関係者、高校関係者、地域住民向けの広報紙（島リハ便り）を4月と9月に発行した。	落部
	⑧ 情報システム化等による業務の効率化が図られているか	4	学生名簿、学生カルテ、成績情報の各システムや、リモート授業・会議も可能なシステムを構築している。事務系処理はグループウェアによる情報管理や、財務・給与等のアプリケーションソフトを導入している。	各システムの運用状況の検証と、改善・機能追加に適宜対応していく。 学生ポータルや履修登録等について、新たなシステムの開発を検討していく。	教職員の勤怠管理システムを導入した。	落部

↓適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1

区分	評価項目	自己評価	現状と課題	今後の改善方策	令和5年度の特記事項	更新担当
3. 教育活動	① 教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	4	養成施設指導要領・指定規則、本学院の教育理念に則り策定されたディプロマポリシー、カリキュラムポリシー、カリキュラム編成基本方針によって定められている。	教育課程編成委員や学校関係者評価委員会等の外部意見を参考に、教務会議にてディプロマポリシー、カリキュラムポリシー、教育課程の改善を継続して行っていく必要がある。		錦織
	② 教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4	学校関係者評価等にて業界ニーズを捉えつつ、ディプロマポリシーで教育到達目標、学生便覧で授業到達度が明示されている。学習時間は教育課程表にて明示している。	学校関係者評価等で業界のニーズを捉え、到達目標についても適時見直しを行っていく。		錦織
	③ 学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4	両学科ともに資格取得に必要な知識および技術の習得に向けたカリキュラムが体系的に編成されている。	本学の特徴である中山間地域という地域性をさらに活かしたカリキュラムの編成を検討していく。		吉田
	④ キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	4	4年間を通じた体系的なカリキュラムを実施しており、キャリアに関する学生相談を科目担当者と各担任を含む全教員が連携を取り実施している。カリキュラム外での施設見学も導入している	教員間のキャリア教育に対して組織力の強化を図り就職満足度100%に向けた方策を検討する。特に作業療法学科は新任教員が多くキャリア教育の知識及び技術の向上を図る必要がある。		雲田
	⑤ 関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われている	4	本学院は山間部にあり、高齢化と医療の過疎化が進む地域であるため、町（行政）や地域の企業との連携が強い。この環境を活かすべく、スポーツ理学療法、生活・地域マネジメント論、SB・GB、CBRなど、地域資源を利用したカリキュラム開発を行政や企業などの協力を得ながら実施している。	協力を得られる行政や企業の拡大を図る必要がある。現在の関係性を活かしたカリキュラムの見直しを継続して行う。		津田
	⑥ 関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ実技・実習等）が体系的に位置づけられているか	4	臨床実習だけでなく、インターンシップ等の仕組みを整備し、また、学生面談を通じて担任より促しを図っている。インターンシップの種別・施設数が少なく、学生に多様な経験を十分に提供できていないことが課題である。	より幅広い分野を経験してもらう為により多種多様な連携先の確保を継続する。		津田
	⑦ 授業評価の実施・評価体制はあるか	4	学生による授業評価を実施し、結果を担当教員（専任教員・外部講師）にフィードバックすることで改善を行っている。	授業評価のフィードバック後に、新人教員が授業設計・手法を学ぶことができる仕組みをFD委員会で検討していく。		青木
	⑧ 職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	4	職業教育に関して、リハビリテーション教育評価機構、学校関係者評価委員会、教育課程編成委員会での評価を取り入れている。	引き続き、外部からの評価を取り入れ、より良い職業教育を実施していく。		吉田
	⑨ 成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	4	成績評価・単位認定の基準は、学則に定めており、学生便覧にて学生に示している。進級・卒業判定に関しても、学則に明確に示している。	学生に対し、学生便覧にて成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準の周知に努める。		吉田
	⑩ 資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4	4年間を通じた体系的な国試対策カリキュラムを設置している。また、e-learningの仕組みを整備している。しかし、新人教員が多く、e-learningの理解が不十分であることが課題である。また、国試対策にかかる教員負担が大きいことが課題である。	新人教員に対するe-learningの理解を深める研修を内容含めた運用の見直しを検討する。学科内で組織的に新人教員の国試対策の能力を向上させる取り組みを行うことで、教員負担の軽減を図る。		吉田
	⑪ 人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	4	教員は、新人教員4名（作業療法学科・理学療法学科）を除き専任教員の要件を満たしている。全領域における臨床経験のある教員が確保できている。	専任教員の要件を満たしていない4名については、理学療法士作業療法士専任教員養成講習会の修了または単位（教育学）の取得が修了する予定である。		青木
	⑫ 関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務含む）を確保するなどマネジメントが行われているか	4	各分野において先駆的に活動されている専門職を外部講師として確保し、教育目標の共有を含めマネジメントを行っている。	現状の継続を行う		青木

↓適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1

区分	評価項目	自己評価	現状と課題	今後の改善方策	令和5年度の特記事項	更新担当
	⑬ 関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	4	大学院への進学や研究活動を通して教員の専門分野について研鑽を積んでいる。また、学科ごとに、年次研修計画を立案し、教員の研修研究活動を促進している。しかしながら、新任教員が多く学生教育に力を注いでおり、研究活動との両立が不十分である。	教育経験を持つ教員が新任教員に対して、オンゼジョブトレーニングを行う。		青木
	⑭ 教員の能力開発のための研修等が行われているか	3	授業評価に基づいた教育研究会をFD委員会主催で行い、学修指導の充実に努めている。アクティブラーニングの理論を用いて学生の能動性を引き出す授業科目の更なる充実を図っている。	アクティブラーニング授業の整備を進めていくため、授業設計、到達度、課題内容、評価方法についての研修を継続して行う。		津田
4. 学修成果	① 就職率の向上が図られているか	4	令和5年度の就職率はPT学科100%、OT学科100%であり、就職満足度は90.4%であった。 求人施設やハローワーク等の関連業界と連携し就職セミナー、就職説明会を開催している。加えて、令和5年度は、新型コロナウイルス感染症拡大により中止していたインターンシップ制度を再開した。引き続き、学生の就職に対する意識を高め、就職先の拡大を行うことが課題である。	就職セミナー、就職説明会を開催し加えて、インターンシップ施設を増加させることで就職先の拡充を行う。		教務
	② 資格取得率の向上が図られているか	4	令和5年度の国家資格取得率は、PT学科100%、OT学科95.7%であった。4年間を通じた体系的な国家試験対策企画を立案し、実施している。また、年次ごとに学習支援が必要な学生を早期に把握し個別指導を行っている。加えて、e-Learnigの体制を整え、学習の効率化を図っている。教員の学習指導能力の向上を図ることが課題である。	教員の学習方略、指導能力の向上を図るために、今年度の指導方法の振り返りを行う。また、学科ごとに教員の指導能力を向上させるための研修を行っている。		内田
	③ 退学率の低減が図られているか	4	令和5年度の中途退学率はPT学科3%、OT学科3%であった。担任は定期的な面談を行い、支援が必要な学生を把握している。加えて、専任カウンセラーを配置し学生相談室を設置している。	中途退学の原因として、学院への不適応が考えられる。早期発見、早期対応できる教員の学生評価能力の向上や、それに対する支援能力の向上が図れるよう、事例検討などの学科内研修の機会を増やしていく。		内田
	④ 卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	4	在校生の社会的な活動および評価を把握しているが、卒業生に対する把握は不十分である。	卒業生の社会的な活動および評価の把握方法について検討していく。		内田
	⑤ 卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	4	卒業後、3年に一度就職先へアンケート調査を行い、キャリア形成への効果を把握している。調査結果から、カリキュラムの改善を図っている。	継続的な検証と教育活動の見直しを行っていく。		内田
	① 進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4	担当教員を配置し担任と連携するよう支援体制を構築している。ハローワークとの連携も回り外部との連携体制も整えている。しかし、教員間で就職支援能力に差異があることが課題である。	各教員、特に新任教員を中心に支援能力の向上を図る為のOJTで実施する		雲田
	② 学生相談に関する体制は整備されているか	4	心理カウンセラーによる学生相談室を月2回実施し、学内掲示等で周知を図っている。その他各教員が随時相談を受け付け対応をしている。	各教員、特に新任教員を中心に支援能力の向上を図る為のOJTで実施する		雲田
	③ 学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	4	高等教育の修学支援新制度の対象校として認定を受けている。また、学院独自の学費減免や運転免許取得費の支援を行っている。立地自治体による学生宿舎の家賃補助等の支援も行われている。	学院独自の経済的な支援体制のあり方を不断に検討していく。	日本学生支援機構の「物価高に対する経済対策支援事業助成金」を活用し、地元商工会発行の商品券(5,000円/人)を新入生全員に配付した(※2~4年生は前年度に配付済)。	落部
	④ 学生の健康管理を担う組織体制はあるか	4	年度毎に学校保健計画を定め、全学生の健康診断を実施している。また流行性疾患に関する感染予防策の周知や罹患学生のスタッフ間での情報共有及び対処を行う体制を整備している。	現状の継続を行う		雲田

↓適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1

区分	評価項目	自己評価	現状と課題	今後の改善方策	令和5年度の特記事項	更新担当
5. 学生支援	⑤ 課外活動に対する支援体制は整備されているか	4	各サークルに対し年度更新時に活動報告書と次年度計画書を提出させ学生委員会で実績把握をしている。その他、学生自治会に活動補助金を支援しており、大会への引率に関しては、学生委員会で協議し、必要に応じて教員を引率させている。他、新入生に向けたサークル広報支援も行っている。	現状の継続を行う		雲田
	⑥ 学生の生活環境への支援は行われているか	4	学生住宅等の生活環境支援について、自治体の協力を得て入居を希望する学生全員分の学生用宿舎を確保している。学生用宿舎の管理は自治体が行い、生活指導は、宿舎担当教員を配置しており担任と連携して支援する体制を整えている。管理に関しても、自治体と連携し状況を把握できる体制を整えている。	現状の継続しつつ必要に応じて連携方法の検討を行う		雲田
	⑦ 保護者と適切に連携しているか	4	間接的な情報は情報提供紙やホームページ掲載等で公表・周知をしている。直接的には年に1回定期面談を実施し、その他必要に応じて随時電話連絡、面談を行っている。情報に関しては、学生記録簿に記録し保存している。	現状の継続しつつ必要に応じて連携方法の検討を行う		雲田
	⑧ 卒業生への支援体制はあるか	2	卒業生支援担当教員を配置し、同窓会組織の活動をサポートをする中で活動状況を把握している。卒業生からの再就職等の相談は学科で共有し、適宜対応している。リカレント教育は、現在桜雪会が活動休止状態であるため、実施できていない。個別に研究を行う者の相談・指導に応じる他、図書室を開放し、学院ホームページを通じて研究協力ができることを公表している。	担当教員を中心に同窓会組織の活動状況を把握し必要に応じた支援を行う。		雲田
	⑨ 社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	3	社会人経験者が入学を希望した場合は、単位認定会議を経て単位認定を行う体制を整備している。	現状の継続を行う。		雲田
	⑩ 高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	4	希望聴取を行い高校への出前教室やガイダンス、来校による職業・学校案内を行っている。現状は希望に沿う出前授業を行える体制等が整っていない事が課題である。	本学の個性や魅力を生かしたメニューの開発に対する企画を検討する		雲田
6. 教育環境	① 施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	3	施設・設備は指定規則、設置基準等に基づき、学生数と教育上の必要性に十分対応できる施設と設備を有している。	開学から25年以上が経過し、施設設備の老朽化が進みつつある。良好な教育環境を維持していくため、中期的な更新計画を策定し、計画的に施設・設備の更新を進めていく。	年次計画で更新を進めてきた本館の空調設備の更新が完了するとともに、室内機が故障した研修棟1F演習室の空調整備を更新した。また、レストランバスカルの椅子（表皮シートが破れたもの）等を更新した。	落部
	② 学内外の実習施設、インターンシップ等について十分な教育体制を整備しているか	3	インターンシップの仕組みは整備されている。今後は施設の領域拡大を図ることが課題。2年次から4年次にかけて臨床実習Ⅰ～Ⅳを体系的に設置している。実習地に関しては領域が偏っていることが課題。その他、実習地向け研修の開催など連携強化に努めている。	インターンシップは契約している施設数の拡充を図るため企画を行う。特にOT学科では実習施設数の整っていない精神、発達分野の確保に努める。引き続き連携強化の為の研修を継続して行う。		津田
	③ 防災に対する体制は整備されているか	3	本学院独自の防災マニュアルを作成している。また、学生及び教職員が参加する火災避難訓練を毎年実施している。	学生宿舎（公社若者定住住宅／管理者：奥出雲町）での災害を想定した防災訓練の実施を検討。	R5. 11. 20学院において火災避難訓練を実施した。	井上

↓適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1

区分	評価項目	自己評価	現状と課題	今後の改善方策	令和5年度の特記事項	更新担当
7. 学生の受入れ募集	① 学生募集活動は、適正に行われているか	3	教職協働により、高校訪問や進路ガイダンスへの積極的な参加、オープンキャンパス、公開講座等の実施により、直接情報提供するほか、学院HPやTVCM、SNS、学院案内等の多様な媒体を通じて情報発信を行っている。	オープンキャンパスへの誘導を図るため、国家資格の取得率や就職満足度の高さを前面に打ち出した広報活動を行っていく。	学院の認知度向上を目的として地域デザイン講習会（学院）、マインドフルネス実践セミナー（松江市）を開催した。また、高校教員見学会を6/29と7/27の2回開催（前年度までは1回）した。	松本
	② 学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	3	国家資格の取得率や就職満足度の高さ、退学率の低さなどについて数値で情報提供している。また、取得可能な資格や卒業後の進路等についても情報提供している。	高校生や保護者、高校教員に対する療法士（特にOT）の職業理解を広げる方策を検討していく。		松本
	③ 入学選考基準を明確化し、適切に運用しているか	4	入学試験委員会規程に基づき、入試委員会で定めた入学選考方法、合否判定基準に基づき選考を行っている。多様な学生を受け入れるため、総合型選抜入試、推薦入試、一般入試を実施するとともに、受験機会を確保するため、松江市、三次市にも試験会場を設けている。また、総合型選抜入試合格者への学習指導と個々の学習能力の評価を目的として入学前教育を実施している。	各選抜方法の検証と改善を継続的に検討・実施していく。		平井
	④ 学納金は妥当なものとなっているか	4	学納金は、学院の運営経費をベースに、中国地区同種専門学校との均衡も考慮し、設定している。入学時の経済的な負担を軽減するため、入学金は設定していない。	光熱費、原材料費等の高騰が続く中で、学納金の額について、継続的に検討していく。		落部
8. 財務	① 中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	3	現時点では、財務基盤は良好だと考えるが、財務基盤の安定を維持するためには、学生数の確保が重要課題である。	学生確保に向けては、特に国家資格取得率や就職満足度の高さなどをアピールするとともに、社会的ニーズの変化に対応した学院の魅力と教育の質の向上に一層取り組む。	・R5年度の基本金組入前収支差額は、約18000千円のプラス（R2年度以降4期連続のプラス）。	落部
	② 予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4	学院運営会議で次年度の予算編成と中期的な施設設備の更新整備計画を協議し、予算編成方針に沿った事業への優先配分を行うとともに、スタッフ会議（職員全員参加）において情報共有を図っている。	開学から25年以上が経過し、施設設備の老朽化が進みつつある。良好な教育環境を維持していくため、中期的な更新計画を策定し、施設設備の更新を計画的に実施していく。	・臨床実習指導者（バイザー）会議等を原則、オンライン開催とし、旅費交通費、会場費等の節減を図った。	落部
	③ 財務について会計監査が適正に行われているか	4	毎年度の決算にあわせ、監事による監査が実施されており、監査結果は理事会・評議員会において報告されている。また、経理処理については、随時、顧問税理士による指導・助言を受けている。	引き続き適正な会計処理に努めていく。		落部
	④ 財務情報公開の体制整備はできているか	4	財務情報公開規程を整備し、それに基づき適切に対応している（ホームページ上でも公開している）。	財務情報公開規程については、適宜見直していく。		落部
9. 法令等の順守	① 法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4	私立学校法、専修学校設置基準、理学療法士作業療法士学校養成施設指定規則等の関係法令を遵守するとともに、ハラスメントの防止、個人情報の保護、学校評価等に関する規程を整備し、適切に対応している。	関係法令、設置基準及び各種規程等に基づき、適切な学院運営を継続していく。		落部
	② 個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4	個人情報の保護等に関する規則を整備し、それに基づき、適切に対応している。	関係法令、規則に基づき、適切に対応していく。		落部
	③ 自己評価の実施と問題点の改善を行っているか	4	毎年度、自己評価を実施し、学校関係者評価委員会での意見聴取も経て、問題点の改善に取り組んでいる。	今後も継続していく。		落部
	④ 自己評価結果を公開しているか	4	学院評価実施規程に基づき、ホームページ上で公開している。	今後も継続していく。		落部

↓適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1

区分	評価項目	自己評価	現状と課題	今後の改善方策	令和5年度の特記事項	更新担当
10. 社会貢献・地域貢献	① 学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	4	教職員は積極的な地域連携を図っている他、地域連携型の授業や課外活動を整備し実施している。また、行政や企業と連携し、調査研究等を行い貢献に役立てている。学院施設・設備・備品は、卒業生に限らず地元地域、企業等に開放し高等学校には進路ガイダンスに教員を派遣している。加えて、高等学校のキャリア教育の一環として本校への来校を推奨している。	現在の継続を行う		雲田
	② 学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	4	学生委員会が窓口になり、ボランティアの依頼を受け入れ、学生に周知することでボランティア活動を促進している。活動実績は学生委員会で報告され、実績は記録保管されスタッフ会議で全体共有を行っている。	現状の継続を行う		雲田
	③ 地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	4	介護予防教室への定期的参加や、小学生の職業体験を行うなど地域からの要望に可能な限り対応できるよう努めている。	現状の継続を行う		雲田